

石狩浜から世界が見える

昨秋、浜辺で瓶を拾いました。

2004年は、数多くの台風が日本列島を襲いました。石狩浜でもそのたびに大波が打ち寄せましたが、そんな次の日には、浜辺にいろいろな物が打ち上げられて残っています。貝殻、流木など自然の物から、漁具や100円ライターのような人工の物まで、さまざまな物がありますが、中でも目立つのが、ペットボトルやガラ

ス瓶などの容器です。そのほとんどは見なれたジュースやお茶、ドリンク剤などですが、よく見ると、ときどき見られない物を目にします。外国の瓶です。

昨年、いくつめかの大きな台風が過ぎ去った後、石狩浜海水浴場から石狩湾新港まで歩いてみました。確かに、ボトルがたくさん漂着しています。大半は日本の物ですが、外国の物もかなり混じっています。外国と言っても、英語

が書かれた瓶はありません。ほとんどがロシア文字か、ハングル文字が書かれた物でした。異国の川や海岸から流れてきたのか、船上から捨てられたのか。どちらにしても、エボシガイが付着している瓶も多く見られることから、ある程度長い間、海上を漂っていたことがうかがえます。

ロシアの瓶で多いのは、やはり БОДКА (ウォッカ) や ПИВО (ビール)。ハングル(主に韓国?)の物は、ドリンク剤らしき物が目立ちます。飲み物だけではなく、以前には、ちよつと危険な物を見

つけたこともありました。H₂O₂ (過酸化水素) と書かれたポリタンクです。過酸化水素は、ごく薄いものはオキシドールとして知られる消毒薬として使われていますが、濃いものは強い酸化力を持ち、有機物を分解してしまう劇薬です。

そんな恐い物もたまにはありますが、他にもフランスやオランダのポリ容器など、いろんな国から漂着物がやってきます。石狩浜は、世界につながっているのです。台風通過後だけでなく、強い季節風が吹きつける冬の時期も、世界各地からの「たより」を見つけるチャンスです。

(志賀健司)



石狩浜に漂着した外国の瓶、ペットボトル



エボシガイが付着した韓国のボトル。エボシガイといっても貝ではなくフジツボの親せきで、漂流物や船底に付着して生活します。



韓国製の過酸化水素タンク

■文化財課 ☎72-6123

✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

■いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711

✉i-museum@bz01.plala.or.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎60-6107 (冬期 ☎72-3240)

✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

※2月20日、石狩浜でビーチコーミング(漂着物さがし)を開催します(詳細は16ページ)。